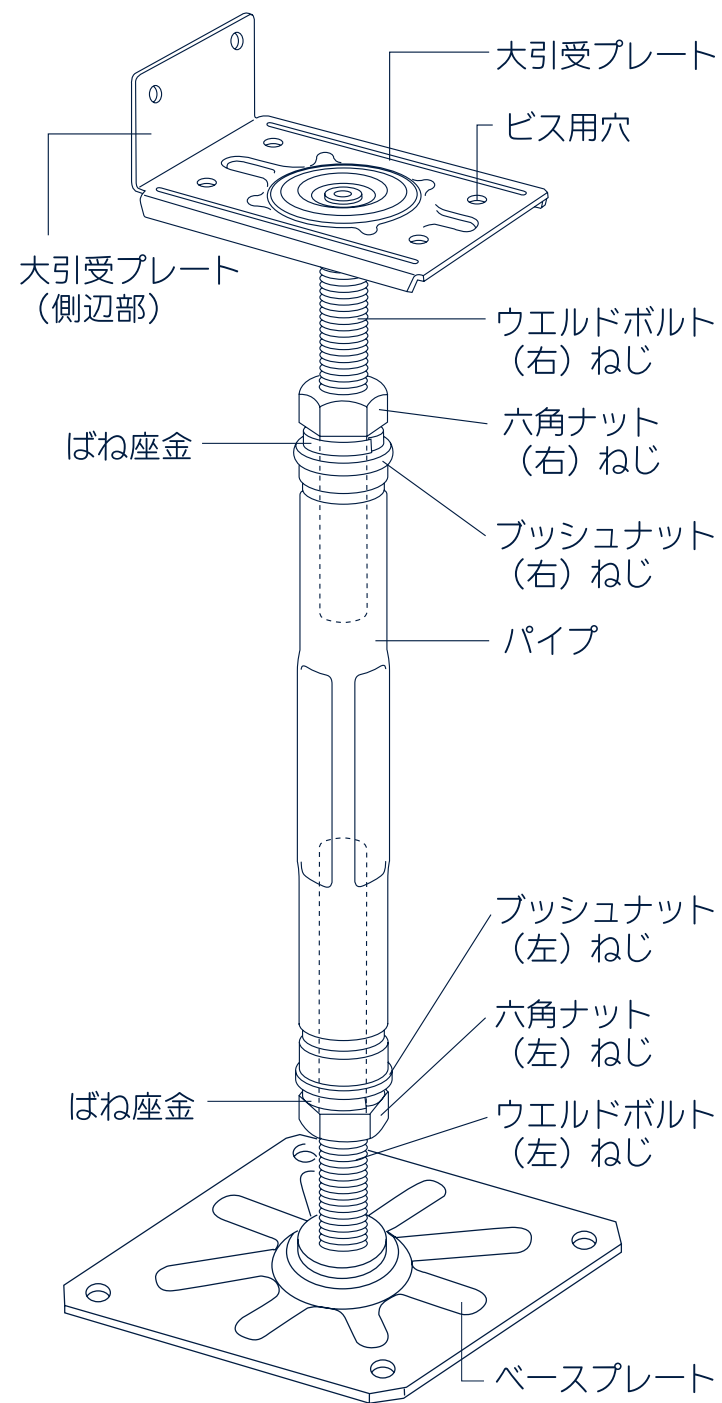


製品図 (姿図)



あらかじめ準備するもの

- 基礎側 (コンクリート) との
 接合基本型
 ウレタン樹脂系接着剤
 ボンド束職人
 アプリパック (NET.500ml)

これと同等以上のものを選択下さい。

ご注意

酢酸ビニール系の接着剤は
 使用しないで下さい。

- コーススレッドW51
 (大引との固定用) もしくは
 十字穴付き木ネジ
 (軸径: $\phi d3.8$ mm以上、
 長さ: $\ell 40$ mm以上)

ご注意

釘打ちでは強度不足の為、
 問題がすぐにでてきますの
 でお止め下さい。

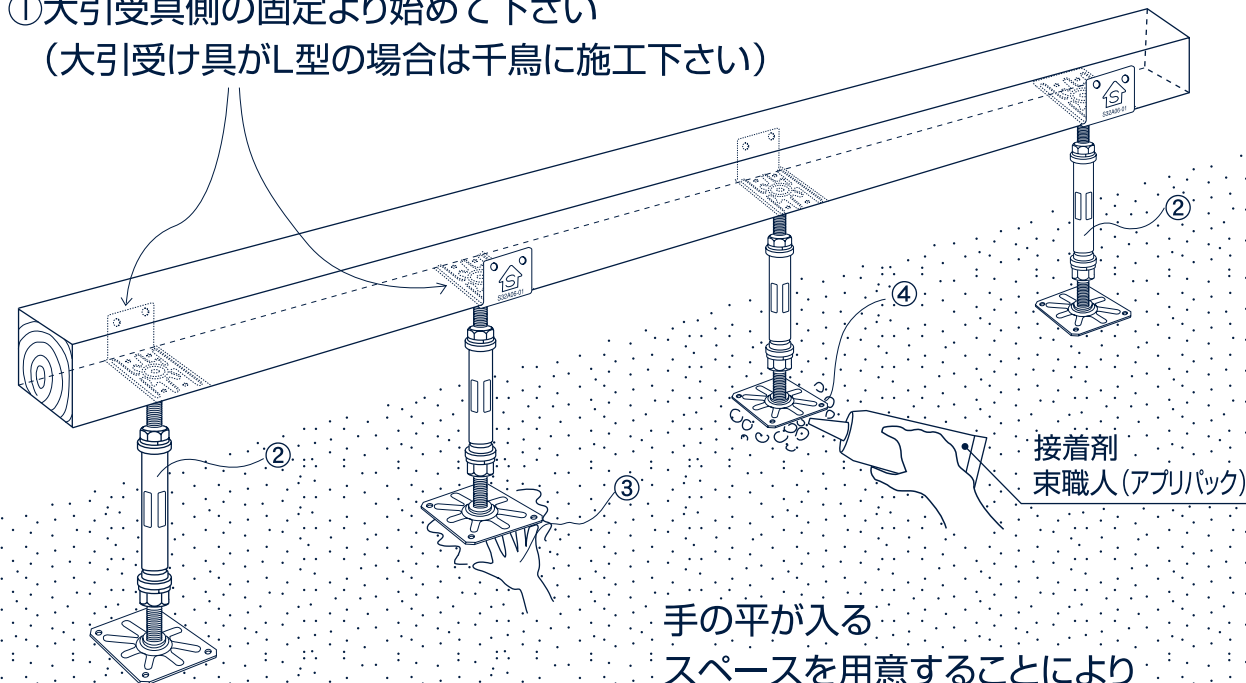
- コンクリート釘
 (基礎体への固定用)
 #12×25mm (19mm)
- 19mm・21mmスパナ各1本、
 あるいはモンキー2本
- 電動ドライバー
- かなづち

ステップ①

財団法人 日本住宅・木材技術センター  性能認定金物
 認定番号 S32A06-01

スパナ掛け部  19mm、六角ナット  21mm 2本が必要です

- ① 大引受具側の固定より始めて下さい
 (大引受け具がL型の場合は千鳥に施工下さい)

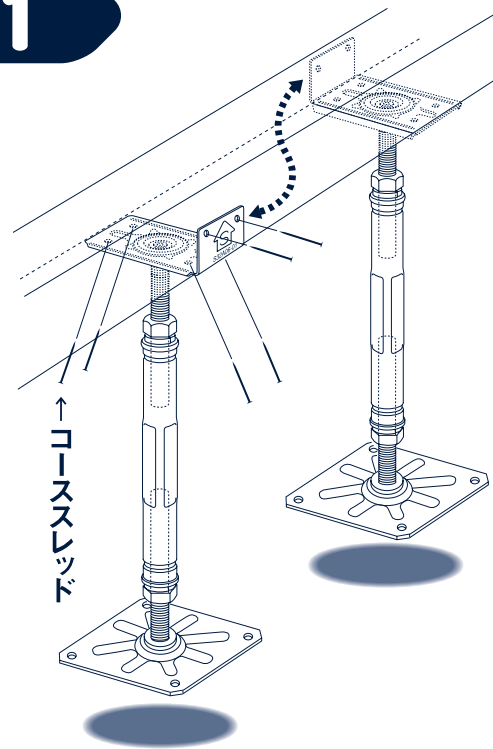


手の平が入る
 スペースを用意することにより
 基礎体の清掃並びに接着剤の塗布が
 簡単になります。

- ② 大引両端部を少々高く (あるいは中間部を少々低く) 仮置きする。
- ③ ④ 基礎体の清掃と接着剤の塗布、塗布量は親指大で約20g前後、これにて充分です。
- ⑤ パイプを回転させてベースプレートが接着剤に広くなじむ様に押し付けて下さい。
- ⑥ コンクリート釘 (#12×25あるいは19) を対角に2ヶ所打って下さい。
- ⑦ レベル出し完了後⑤、⑥のナットをパイプ側に締め付けて (ロック完了) 作業が完了します。

詳細は裏面に記載

1



基礎側(コンクリート)との接合基本型

ウレタン樹脂系接着剤

●ボンド束職人
アプリバック (NET.500ml) これと同等以上のもの
を選択下さい。

コンクリートレンガを用いた当社の(単軸平面)引張接着強さ試験に於いて概ね下記の傾向を示しています、但し

- ・基礎の湿乾状態
- ・接着作業環境(基礎体の清掃状況)
- ・ベースプレートの大きさと接着剤のつけ方などで影響を受けますので大ざっぱな目安としてお考え下さい。

塗布量=20g 養生期間=1週間 **450~700kgf**

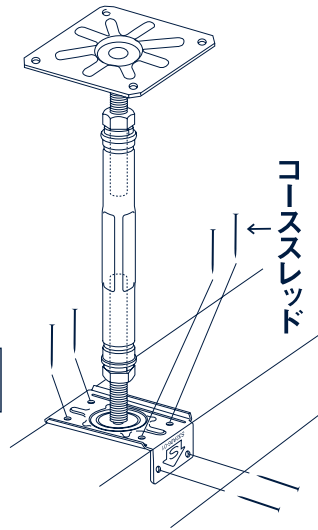
コンクリートが濡色の場合での接着は上記強度の半分にも達しませんのでお避け下さい、この状態でコンクリートが乾燥しましても強度は上がりません。

注意 接着前のご注意

初期接着強さに、安定したものを持っていますが、この強度を発揮するのに最低3~4日の養生が必要です。

これが為、接着剤を塗布する時にコンクリート釘(#12×25(19)2本打ち)を必ず打って下さい。

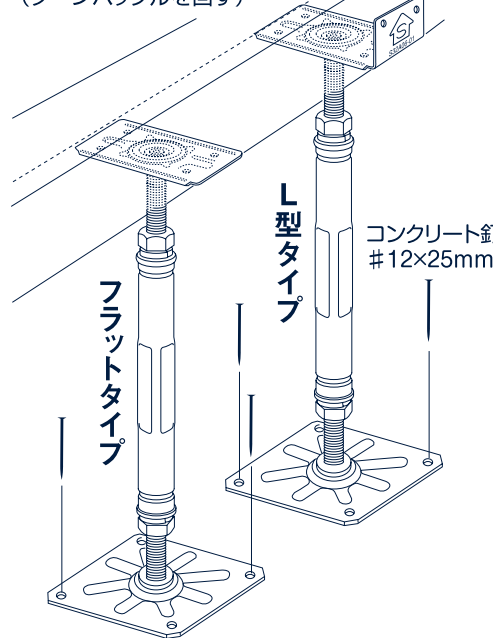
○上記以上に基礎体との接合強度をご希望でしたら別途ご相談下さい。



2

大引にステップ①鋼製束を設置後水糸張りレベル出しをする。

※ベースプレートを、基礎体面に密着させる(ターンバックルを回す)

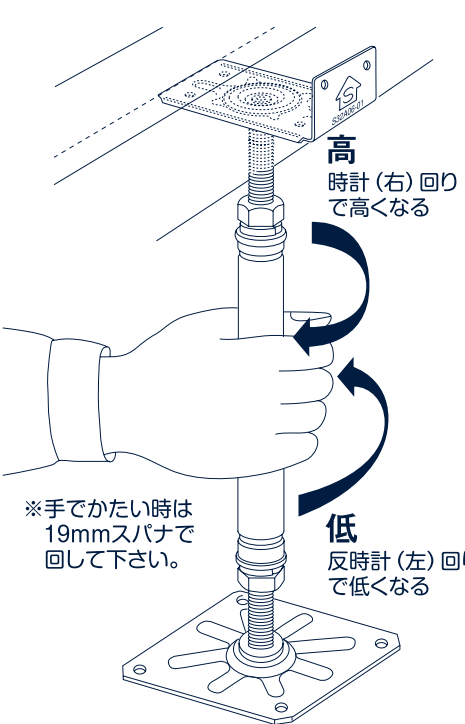


※ボンド乾燥まで浮き上がり防止の為仮止めとして対角(2ヶ所)に釘止めをお勧めします。
※束石仕様では、ボンドのみの施工となります。

3

ステップ①鋼製束の高さを調整する。

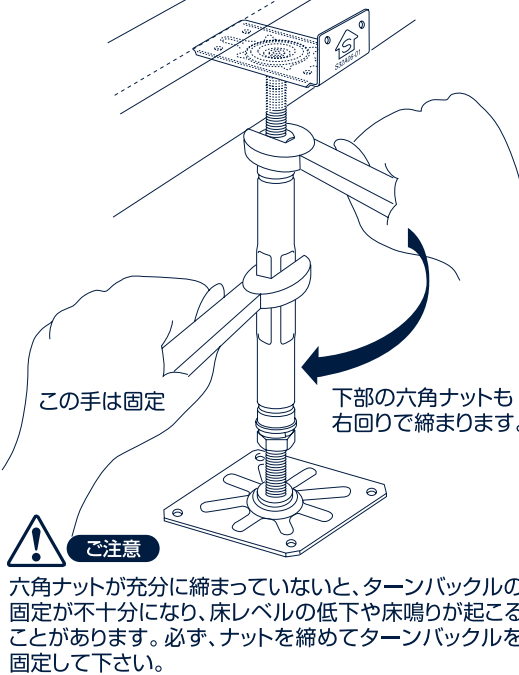
●ターンバックルをまわし、大引の高さ(レベル)を調整します。



4

ナットの締めつけ。

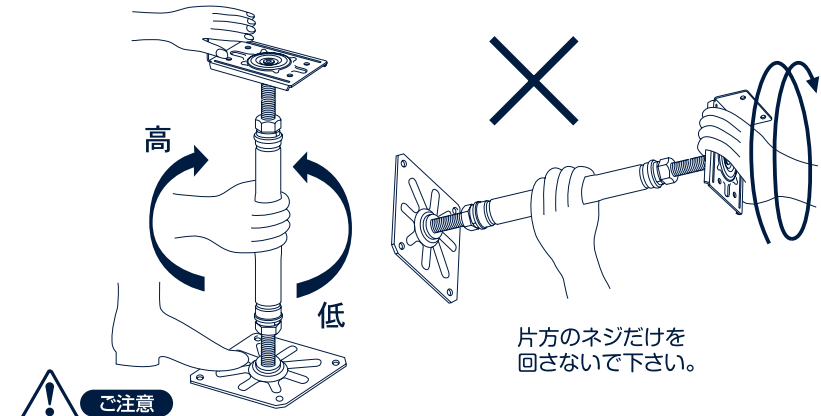
●21mmスパナで上下の六角ナットをしっかり締めつけて下さい。
上と下の六角ナットは右に回すと締まります。その後レベル再チェックして水糸ははずす。



注意 六角ナットが充分に締まっていないと、ターンバックルの固定が不十分になり、床レベルの低下や床鳴りが起こることがあります。必ず、ナットを締めてターンバックルを固定して下さい。

使用上の注意

●束の高さの調整はターンバックルを回して下さい。
ステップ①鋼製束の高さ調整はターンバックル(胴部の中央)を回転させ、高さを調整して下さい。



注意 ご注意

●鋼製束の使用高さは下記の数値内で調整してください。

[単位mm]

